

討論

■発言者

山本 博之(司会)……京都大学地域研究統合情報センター
伊賀 司 ……………神戸大学大学院
中村 正志 ……………アジア経済研究所
鈴木 絢女 ……………日本学術振興会特別研究員・
政策研究大学院大学
川端 隆史 ……………外務省
鳥居 高 ……………明治大学
西 芳実 ……………東京大学
金子 芳樹 ……………獨協大学
塩崎 悠輝 ……………同志社大学大学院・
在マレーシア日本大使館

山本(司会) 討論に入る前に、討論の進め方についていくつか確認と提案をします。まず、マレーシアの事情に詳しくない参加者に先にいくつか質問を出していただいて、その後でマレーシアを専門に研究している参加者で討論するという分け方はしません。マレーシア研究の専門家たちは、はじめから熱い議論を戦わせてくださってけっこうです。ただし、マレーシアの事情に詳しくない人たちも聞いていることを意識して、そういう人たちにも理解できるような言葉遣いで議論するようお願いします。マレーシアの事情に詳しくない人たちも、特別な配慮はしませんが、いつでも議論に割って入ってくださってかまいません。

2つ目は、1人の質問者が「3つコメントがあります」とまとめて質問やコメントをするスタイルはここではやめましょう。最初に参加者何人かから質問やコメントを集めて、報告者にまとめて回答してもらうこともしません。それでは議論が深まらないので、そうではなく、ひとつひとつの話題について密な議論をしていきたいと思います。一度に1つの話題を出して、その話題をみんなで議論して、一通り議論が済んだら次の話題に移るということにしたいと思います。

3つ目は、このセッションの討論に限る提案です。このセッションでは、数値化して表現することで選挙結果を解釈する報告がいくつかありました。マレ

ーシアの現地事情に詳しい人は、現場で実際に起きていることについていろいろデータを持っていることと思います。しかし、個別の具体的な話は後のセッションでそれぞれ時間をとってありますので、このセッションの討論では、報告者から出されたデータと議論をもとに、データの読み方や議論の展開が妥当かどうかという点を中心に議論できればと思います。

選挙運動期間が13日になった影響はあるのか

伊賀 鳥居さんの基調報告でも指摘されていましたが、今回の選挙でBNが内部からがたがたになっていたのはどうしてでしょうか。私は今回いくつか選挙区をまわりましたが、UMNO青年部メンバーにも野党候補に投票したという人がたくさん出てきています。野党に投票するまでいかなくても、与党支持者で投票を棄権した人が多く出たという話も聞かれています。鈴木さんが、マレー人有権者はどの政党でも「それほど差異がない」と考えたために投票率が下がったという話をしていますが、私はトレンガヌやクランタンでUMNOの得票が下がっているのはUMNOの支持者が投票に行かなかったのではないかと考えています。

それから、テクニカルな問題ですが、2004年の選挙では選挙運動期間が8日間しかなかったけれど、今回の選挙は13日間ありました。消えないインクを

使って投票することが決まっていたけれど、投票の4日前に選挙管理委員会がインクの使用を取り消して、政府がかなり批判されていました。こういうテクニカルな問題は今回の選挙結果にどんな影響を与えたのでしょうか。

中村 選挙運動の日数が変わったことは、正直に言って全然わかりません。8日間が13日間になったということですが、以前はもう少し長かったときもありました。

伊賀 2004年は8日間、1990年代は9日間か10日間で、今回は13日間でした。

中村 選挙をやると言い始めてから選挙までの期間は短かったと思います。今までなら各州をまわる期間がもっと長くて、その間にもっと準備していたように思います。しかも今回はチャイニーズ・ニューイヤーの直後で、準備がとても短くて大丈夫かと思いました。でも13日間になったことについてはわかりません。

政党を一元軸上にどう並べるか

山本 鈴木さんのご報告で政党を数直線に並べる説明がありましたが、もう少し詳しく説明してください。

鈴木 0から100という取り方は安直でした。真ん中を0にすればよかったかなと思います。左右で値が上があれば上がるほど急進になるという並べ方です。

中村 何が急進に当たるのかを説明してもらえませんか。

山本 PASは急進という位置づけですね。DAPは急進ですか、それとも違いますか。

鈴木 DAPは急進です。

川端 ブミプトラ政策に対して保守的かどうかということですか。

中村 中間がゼロで両脇がプラスマイナスというイメージですね。

山本 左右の極大になると何が増えるんですか。

鈴木 右にいけばいくほどマレー人優遇を重視して、左にいけばいくほどマレー人優遇をやめようということです。

鳥居 そうなるとPASとUMNOの位置関係がおかしくなりますね。PASがマレー人優遇の急進となっておかしいでしょう。

中村 鈴木さんをサポートすると、日本でも右翼・左翼の何が右・左なのかという議論がありますけれども、一元軸上でものごとを単純化して考えて見えてくることもあるんです。問題は、これで何を語りたいかがわからないことなんです。

山本 そこにいく前に鈴木さんが出した数直線をどう見るかという段階で伺いたいんですが、一元軸でやるのはいいとして、たとえばPKRはどこに入るんですか。今の説明だとDAPと同じあたりになりませんか。

鈴木 PKRは、NEPの廃止も唱えています、マレー人を大切にすること何回も言っています。アンワールのインタビューを読んでもマレー人を大切にすると言っています。NEPの廃止とマレー人優遇の中間を取ったと有権者にとられたのではないかと考えました。だからPKRはちょうど真ん中に位置づけてあります。

華人比率が高い選挙区では 与党の得票率が上がる

西芳実(東京大学) 特定の民族を優遇することとほかの民族を大切にすることは両立できると思うんですが、鈴木さんのご報告でも中村さんのご報告でも、なぜマレー人優遇を認めると他の民族を支持しないことになるのかわかりませんでした。華人の民族的選好に従った投票行動に関連してこの点をもう少しご説明いただけませんか。

鈴木 穏健派つまり数直線の真ん中あたりに分布する政党は、そういうことができる政党だと思っています。ただ、私が言ったのは、華人有権者の中に、マレー人がブミプトラ政策を追求する動きがあることを自分たちの利益が少なくなると理解した人が多かったのではないかということでした。西さんが言うように両立させることは可能だと思いますが、有権者が投票する際にブミプトラ政策を追求すると損をすると考えたという説明です。

中村 私も関係はあると思うんですが、難しいですね。今日は演繹的な話をしていないので、今日の話の筋で考えてみます。私の図が真ん中で上がっていくのは、もとなる華人に加えてマレー人の支持があがっていくからです。これは価値判断ではなく事

実です。この事実から出発すると、なぜそうなのかという問いが出てきます。左側はMCA対DAPとかGerakan対DAPというパターンです。右側のマレー人比率50%以上のところは、いまはPKRも入っていますが、UMNO対PASです。マレー人ばかりのところはUMNOの得票率は低くなっています。有権者のうち華人の比率が増えると与党の得票率が上がる傾向は前回の選挙まで11回ありました。この説明は3つあります。1つは比較的納得しやすいもので、PASとDAPは仲が悪かったので選挙協力をしていなかった、これに対してUMNOとMCAは選挙協力しており、MCAの候補が立つところではUMNOが動員したというものです。私はこれを動員協力説と呼んでいます。2つめは、実証研究がないので本当か嘘かわからないんですが、マレー人の多いところはPASの組織が強いし、華人が多いところではDAPが組織を持っていて、組織の格差の問題ということです。かなり昔、マレー人が多いところでは志向が急進化して、民族が混じり合っていると穏健化すると言った人がいました。これとほぼ同じですが、志向ではなく組織の問題です。3つめは、PASとDAPの意見が相容れないという事実です。今回DAPは「Malaysian Malaysia」（マレーシア人のマレーシア）と言うのをやめました、DAPはこれまでずっとそう言い続けてきました。一方でPASの党是はイスラム国家建設です。選択肢が2つしかなければ、自分たちの利益に近い与党を選択することになるのはきわめて自然だと思います。これも大きな理由ではないかと私は思っています。

野党は民族融合を掲げても実態は民族政党

西 BNの各政党は民族政党と位置づけられている一方で、野党は何らかの形で民族融合的な側面を出しながら党のアピールとしては多民族と言っているという理解でいいでしょうか。

中村 基本的に、華人系の野党で華人政党だと名乗った政党はありません。ですが、「Malaysian Malaysia」というのは完全に色が付いているスローガンです。マレー人のマレーシアという現状を否定することが前提としてあるわけで、だからアンチ・マレー人という意味になります。「Malaysian Malaysia」というの

は、ヨーロッパ人や日本人は民族間の平等を求めるからノン・コミユナルだと言いますが、マレー人には華人の利益のことだと考える人が非常に多いんです。どちらが正しいかと言うことではなくて、マレー人にそのように認識されていることは間違いないんです。PASもそうで、PASもイスラム政党であって民族政党ではないと言っているけれど、現実問題として華人にどれくらいイスラム教徒がいますか。せいぜい3万人か5万人かでしょう。

西 DAPにしてもPASにしても、標榜しているスローガンは民族融合だけれども、研究者も現地の人もそれぞれ華人政党やマレー人政党と認知しているということですか。

中村 そうです。政党のメンバーを見ればわかります。DAPにはかつてインテリのマレー人がいたこともありますが、マレー人はほとんどいません。PASはほとんどマレー人で、華人は、ごく希にいますけれど選挙で公認候補になることがあるかないかという程度の問題です。

川端 クランタン州議会議員にPAS所属の華人ムスリムが1人います。アンワール・タンという人物です。

華人はPASに投票したのか

山本 中村さんによれば、今回の選挙で華人はPASを支持していて、その理由は華人がPASをイスラム国家政党と見なくなったからだろうということでしたが、鈴木さんは今回の選挙で華人はPASに投票していないと言っています。PASの扱いが違うようですがこれについてはどうでしょうか。

中村 私の報告内容はPASとPKRの区別をしていません。図1-3です。今回の結果は、グラフがごくわずかに斜めになっているように見えますが、これは統計学的には相関があると考えてはいけない水準です。今までのようにUMNO候補とマレー人野党候補となったとき、華人が多ければ与党の得票率が増えると判断してはいけない水準です。そうになると、いままで固定的にあったものが今回なくなったと判断するのが自然なので、これまであった事実が事実でなくなったということになります。華人にしてみれば、UMNO対PASではPASを選ぶのがとんでもないということが事実でなくなったと判断するのが妥

当だと思えます。なぜそうなるのかは私にはよくわかりません。UMNOよりPASがずっとましだという話になったわけではなくて、支持率は両者に半々くらいなんだろうと思えます。

鈴木 サンプルが少なくて有意性を出していないので断言はできません。私が見たところ、非マレー人が増えれば増えるほどPASの得票率が下がる傾向がはっきりあると思いました。統計的にはきちんと見なければならぬでしょうが、まだPASは華人に受け入れられない選択肢ではないかと思えます。

中村 それは、どこまで論証の厳密さを追求するかという問題ですね。こういう方法で議論するときには、有意水準を満たす必要があるところでは有意水準を満たしてほしいです。有意水準を満たしていなければ関係がゼロかと言えばそうとは言いきれませんが、今回の選挙結果については、相関があると考えられる水準かといえば、相関があるとは言えないということです。

山本 わかりやすく言うと、データの取り方から判断して中村さんの主張の方が妥当だということですか。

中村 それは間違いのないです。ただしそれをどう解釈するかは難しいところがあります。

与野党で候補者の民族が異なる選挙区

川端 与野党で候補者の民族が合致していない例、たとえばマレー人対華人とかインド人対華人とかなる組み合わせを集めてみました。それぞれの結果を調べてみると、地域性という問題もあるでしょうが、ジョホールだと今まで通りどういう対戦でもUMNOが勝っています。ほかの選挙区で野党が勝ったところや微妙な結果が出たところで候補者の民族が合致していないところを見ると、DAPとPKRがそれぞれ半分ずつ取っています。DAPは華人の利益に立つと言っていましたが、候補を立てたのは民族混合の選挙区が多くて、インド系が有権者の20%というところもあります。DAPがインド系の投票の受け皿になっているのかもしれませんが。先ほどのご報告では投票結果の数値を解析して政党の位置づけを判断していましたが、候補者の民族性を見ると、各政党がどの民族の利益代表として行動しようとしたのか、有権者が各政党をどの民族の利益代表と見たのかとい

う観点から見られるように思います。それから、PKRが候補者を立てたのは、対立候補に現職の大臣がいるとか、大臣ではないけれどベテラン議員がいるとか、選挙戦が厳しい選挙区がかなりありました。数値による説明だけでなく、そういう細かい事情も聞きたいと思いました。

塩崎 3点コメントします。PKRの候補者の背景は、私の知っている限りを申し上げますと、1999年の旗揚げの時点でおおざっぱに言ってUMNOを出たマレー人とNGO団体、そしてもう1つ挙げるとすればABIMでした。1999年の総選挙ではABIMが総力を挙げてKeadilanを支持したんですが、総選挙後の党大会がクアラトレンガヌで開かれたときに路線対立があつてABIMがKeadilanから引き上げたので、党内でNGOが優勢になりました。さらにPRMが合流したこともあつて、2004年と2008年の総選挙ではNGOの勢力が増えました。ABIMはほぼ全員マレー人で、NGOは華人とインド人が多いです。

2つ目のコメントは、鈴木さんの発表でMICとPASが対決したところでPASが勝っているという話が出てきましたが、これはスランゴール州のコラジャという選挙区です。コラジャではPASがマレー人候補を立ててMICに勝っています。マレー人とインド人が対決することはあまりないんですが、これに加えてバトゥケイブという選挙区でマレー人のPKR候補が勝っています。理由は推測の域を出ませんが、これらの選挙区でマレー人に聞くと、Hindrafの活動の後だったのでインド人に対する危機感が非常に強くて、マレー人に入れようという有権者が多かったという話を聞きました。

3つ目のコメントは、伊賀さんが指摘した選挙運動期間が5日間延びたことについてで、BN、特にUMNOには選挙運動によけいにお金がかかって今回はつらかったと言っていたのを聞きました。

国会の3分の2議席が必要なのはなぜか

山本 金子さんに質問です。以前からマレーシア政治でずっと疑問だったんですが、本当に与党は毎回の選挙で国会の3分の2以上の議席を取らなければならないんですか。憲法改正のために必要なのが国会の3分の2ということですが、与党が3分の2を

維持しなければ野党がただちに憲法をかえてしまうというわけでもありません。どうして毎回3分の2が必要だと言い続けているのでしょうか。

金子 マレーシアの憲法は、これまで四十数回改正されてきました。ほぼ1年に1回改正があります。それから、先ほど述べた社会統制関係の法律は頻繁に細かく修正されています。特にマハティール時代は、何か事件があるたびに憲法を変えてきました。四十数回という憲法改正の数には入っていませんが、付属の関連法規にはかなり細かく手を入れています。こういった改正のためには憲法規定で3分の2が必要とされているので、3分の2に固執しているのではないかと思います。

山本 3分の2を常に維持しなければならないという話はどこから出てくるんですか。

金子 常に憲法が改正できる用意をしているということでしょう。それから、実証はしていませんが、政権の正統性の1つの基準として3分の2という言い方が一人歩きしているということはあるかもしれません。

山本 BNで3分の2を取るというのは、本音はUMNOで過半数を取ると言いたいけれど、そう言うのとBNの他の政党を信用していないことになるので「BNで3分の2」を目標にしていると聞いたことがあるんですが、それについてはどうでしょうか。つまり、万一BNの他の政党が全部野党側に逃げてしまっても、UMNOが国会の半分の議席をとっておけば政権は維持できると考えて、UMNOが過半数の議席を占める努力をしているけれど、それを表現するときにはBNで3分の2が目標だと言っておくという考え方です。

金子 それについては考えたことがありませんでした。

政府がコントロールできないメディアの影響

川端 金子さんはご報告でメディアに言及していますが、メディアの政策が自由化したというよりもコントロールできないメディアが出現したというのが大きいのではないかと思います。それから、鳥居さんの基調報告でアブドゥッラーをどう評価するかという話が出ましたが、与党がメディアを買収して傘下に入れようとしても性質上コントロールが難しい

メディアが出てきたのと、メディアに対する規制が変化したという印象があります。

金子 私が報告でメディアと言ったのは、これまで伊賀さんの話を何度か聞いていて、オルタナティブ・メディアの役割が重要になってきていると思ったためです。既存メディアがどれだけ緩和されたについては、画期的に変わったことはないと思います。メディアの幅がかなり広がってコントロールできなくなっており、オルタナティブ・メディアの領域がかなり広がっている点がポイントです。

伊賀 コントロールできないインターネットやオルタナティブ・メディアの領域が広がったことは確かにありますが、あわせて重要なのは、それを政府が容認していることです。マレーシアのメディア政策は、既存メディアすなわち新聞・テレビには規制が大きくかかっていますが、オルタナティブ・メディアすなわちインターネット空間に対する規制が緩くなっているという二本立ての展開になっています。それを政府自身コントロールできないという問題もあるでしょうが、認めているという点で矛盾が出てきています。

マレー人優先政策は強化されていたのか

鳥居 中村さんのデータ分析をもとに議論を整理してみます。BN政権は実態としてサバとサラワクが支えているとあるのは、サバ・サラワクがなぜBNを支えたのかの議論が必要ですが、これは山本さんが明日するんでしょう。次に、与党連合内ではMCAとMICが負けたという話が出てくるので、MCAとMICがなぜ負けたのかという議論をしなければなりません。これについては、中央政治と地方政治のパターンが変わったとあって、これがリンクしてくるわけですね。MCAとMICへの支持がなぜ離れていったのか。少し長いタイムスパンで考えてみると、華人社会やインド人社会のBN支持は1995年の総選挙から非常に顕著になってきて、1995年と1999年の選挙で見られます。その理由として一般的に言われているのは民族間の融和政策です。1つは教育政策で、マレー人でない人々が高等教育を受けられるようになって、喪失していたチャンスをつかめるようになりました。もう1つは経済的規制緩和で、非マレー人の

活動分野が広がっていきました。2004年と2008年の選挙では、アブドゥッラーにしてみると、民族間の軋轢をなくすために経済成長を7%以上で維持することがどうしても必要で、そうすると規制緩和の手をゆるめる選択肢はありません。ましてや中国の台頭で、マレーシアに比較優位があった輸出加工区が外資による輸出産業をとられていく状況にあって手が無いわけですから、規制緩和策をそのままとらざるを得ません。ところが鈴木さんの報告によれば、UMNO内でマレー人を優遇しようという動きが出ていて、これがほかの民族に影響を及ぼしたのではないかということでした。そうするとこういう問いが立てられます。UMNOはアブドゥッラー政権でなぜマハティール時代の民族融和からマレー人優遇へと舵を取らざるを得なくなったのか、あるいは、そのように舵をとるようになったのか。2つ考えられます。ひとつは1990年代の規制緩和や民族融和によってマレー人が喪失感をもって、我々を元に戻せという動きが出てきたこと、もう1つはアブドゥッラーがつなぎ役と考えられて、アブドゥッラーの次が誰なのかと考えられたことです。アブドゥッラー後を考えるには、UMNO青年部を固めて、マレー人優遇という従来のUMNOのポジションを確保しなければなりません。1つ目の仮説はまだ検証していませんが、2つ目の説をとるとして、今回の総選挙でBNが負けた要因はポスト・アブドゥッラーあるいはマレー人政策をめぐるUMNO内部の権力闘争であり、その結果としてUMNOが落ち込んでしまったという解釈がなりたつのか。断片的なデータから組み立てているので、ずっとウォッチしている中村さんやみなさんに議論していただきたいんですが、こういう整理ができるんじゃないかと提起したいと思います。もうひとつ、連邦と州の図2に関して、仮説として中央政治と地方政治の性質の差というのがでていけれど、開発予算やその増減などを考えるべきでしょう。これについては明日のミクロな分析のセッションでトレンガヌが出てくるんだと思います。こんな感じで論点が整理できるかと思うんですがどうでしょうか。

中村 主観の話になりますが、現実問題として実効性のある政策という意味でそんなにマレー人優遇政

策が強化されたと思いますか。私はそうは思わないんです。アブドゥッラーが首相になってから大きかったのは、政府調達60%をブミプトラ企業に委託するというものです。おもしろいのがマイクロクレジットです。政府系の金融機関から小規模商業者に対する融資がありました。はじめ新聞に出たときはいかにもブミプトラ向けの政策だという言われ方をしたんですが、そのあとNew Straits Timesのコラムによると、実は華人の商工会議所からアブドゥッラーに直接話があつて、通貨危機の時に中華系の銀行が整理されて小口の華人商業者が貸し渋りにあつていて、これを何とかしてくれということへの対策だったらしいんです。だから、決してブミプトラ政策を強くしたわけではないんです。今まであつたことをどう捉えるのか、そこが変わったんじゃないかというのが私の印象です。

鈴木 政策そのものは変わっていないというのは同意見です。ただ、マレーシアに滞在していたときに一部で問題になっていたことで、国内取引消費者省が、マレーシア国内で操業している外資のリテール業は株式の30%をブミプトラに割り当てなければならないという通達を出したらしいんです。それをMCAが取り上げて大問題になりました。結局閣議にかけられて通達自体が引っ込められたようで、実際には政策は変わっていません。しかし、これが政治的イシューとなり、華人のビジネスマンが脅威を感じていたことは事実ではないかと思います。

中村 あれは外資の大規模店舗です。MCAや華人コミュニティが求めているのは、大規模店舗を規制しろ、大きな店を入らせるな、という話のからみだったので、今のような話なら外資が困るから喜ぶはずですよ。

鈴木 文句を言っていた母体はミッドバレーのようなショッピングモールのビルを持っている組合でした。あの組合がMCAを通じて異議申し立てをしていたんです。つまり、カルフルなどのリテール産業がでていって、ブミプトラ政策によって国内産業が縮小してしまうことを懸念して文句を言っていたということです。

中村 それは華人コミュニティのなかでも意見が分かれるんじゃないでしょうか。今までよく見たのは、

大店法を作って大きな外資系の商業施設が来ないようしてくれという話です。

川端 大店法による規制を求めるのは零細商店主とかですね。

中村 それを政党がまとめて言っているのはよく見かけました。

川端 鈴木さんが言っているのはメガモールとか儲かっている華人の話で、階級が関わってくるんじゃないですか。

「穏やかなイスラム」政策が 非ムスリムの警戒心を招いた

伊賀 マレー人優遇が政策の上で進んでいるのかよくわからないという話ですが、雰囲気としてマレー人優先、ketuanan Melayuが強まっているという雰囲気が醸し出されてきたのがアブドゥッラー政権ではないかと思います。UMNO青年部のヒシャムディンの話にしても、青年部はそれまで同じようなことをやってきています。2006年に初めてUMNO青年部にテレビが入って中継したんですが、そのときにヒシャムディンがクリス(短剣)を持って敵を倒すゼスチャーをしてクリスにキスをしたので、それを見てみんなびっくりしたんです。個々の 이슈 に関して、たとえばイスラム教への改宗の問題なども、アブドゥッラー政権になってからメディア規制が緩まってそういう話がどんどん表にでてきたんです。そこで、非マレー人がこれまで争点化しなかったような問題を新たに認識し直すようになったのではないかと考えています。

鳥居 実際に政策が強まったわけではないけれど雰囲気的にはそれが強くなっているように感じられる、あるいはマスメディアがそれを倍増させていると理解すると、もうひとつ出てくるのは、マレー人をどうまとめるのかという疑問です。アブドゥッラーがマレー人をまとめるロジックとして、マレー語というのはもうないわけです。つまり教育の中で英語に取り組んでいる。スルタンもちろん出てきません。とすると、出てくるのは宗教の問題です。アブドゥッラーが進めている「穏やかなイスラム」という政策、たとえばそのスローガン、イスラム銀行、イスラム金融のハブ化、ハラルマークの問題などの「穏やか

なイスラム」路線がイスラム教徒でない人々にどう映っているかも議論になるのかなと思います。この点は後のセッションで華人社会やインド人社会を調べている方からも議論が出ると思います。まとめると、マレーシアはラディカルなイスラムに対して自分たちを安定したイスラム世界のモデルとして打ち出そうとしていますが、それは、アブドゥッラー政権の正統性とも関わるけれど、ムスリム以外の住民には危ないものとして映っているのかもしれない。今回の選挙結果の背景が経済政策でないことを前提とすると、イスラムが問題となってくるのかなと思います。

外交政策の選挙への影響

参加者 最近のパキスタン、タイ、台湾、韓国などアジアの選挙を見ると、外交政策が1つの争点になっています。今回のマレーシアの選挙では、中国の影響、ルックイースト政策、イスラム諸国会議機構諸国に対するスタンスなど外交的な問題がイシューになっているのでしょうか。

川端 選挙に関する限り、マレーシアでは基本的に外交政策はイシューになっていないと思います。内政では9.11やアフガン問題がイシューとなりましたが、選挙の争点として外交問題がどうにかなることはないと思います。

塩崎 治安問題として、インドネシア人、バングラデシュ人、ベトナム人の労働者がいて都市部の治安が悪化しているという考え方があります。労働組合は最低賃金を要求しているけれど、外国人労働者が安い賃金で働くために最低賃金を設定できないんです。労働組合は外国人労働者に対して反発があります。

スルタンの州首相任命問題

伊賀 スルタンの話です。3分の2を割ったのは、言ってしまうとUMNOが弱くなったということです。マレーシアの歴史でいうと、マハティール期はUMNOとスルタンは必ずしも良好な関係ではありませんでした。ここで話題にしているのは、1957年憲法で作られた新しい存在であるAgung(国王)ではなく、スルタンです。スルタンは歴史的に出てきた存在で、Agungのようにいきなり出てきたわけではあ

りません。スルタンを見るには各州の法律を見なければなりません。これは研究のポイントになると思うんですけども、スルトンの影響が強まっているのは州首相の任命という話だけではありません。野党も効果的にスルタンを使おうということになります。このようなスルタン制についての議論を金子さんにお伺いしたいです。

金子 スルタンは政治勢力として残っていますから、現実的にいろいろな使い方や使われ方があると思います。ただ、マハティールは典型的ですけど、近代国家における政治システムを念頭に置いてなるべく権力の一元化をしていきたいというのは、マレーシアに今後も長く残る問題だと思います。憲法改正が簡単にできなくなった現状においては近代国家として制度的に煮詰めていくのに手がない状態なので、そういったなかではむしろみんな現実的に動いていて、伝統的な権威や権限がさまざまな形で操作的に活用される可能性が今まで以上に出てくるんじゃないかという気がします。

伊賀 スルタンが自分の意志で動こうとしています。州首相任命問題は、国民の声として選挙で選んだ人物が州首相に選ばれないという話です。

鳥居 それは制度的に違うでしょう。マレーシアは13州あって、9州にスルタンがいます。州の行政の頂点に立つのが州首相です。彼は法律上、手続き的には州議会で過半数の支持を得られると思うものをスルタンが任命するという仕組みなので、伊賀さんの解釈はちょっと違うところがあります。スルトンの問題をどう考えるかという話は、マレーシアが連邦制度の国であることが改めて表面化したということではないかと思います。州の行政の長である州首相と、州の官僚の長である州官房長官は、ムスリムでありマレー人でなければならないという規定が9つの州の州憲法に規定として残っています。これは19世紀に作られた州憲法をまねて他州が作ったためです。スルトンの問題は、連邦制度の問題と、伝統的な政治権力者であるスルタンという二面性を持っているということです。イスラム化の問題はスルタンが各州のイスラムの長なのでおもしろくなってくるということかなと思います。

中村 11月のBersih、つまり事実上野党が中心にな

っているNGO連携による選挙の公正性を求めるデモがなぜ宮殿に行ったかという、Agungに請願書を出そうとしたからです。Agungが国会の解散権を持っているからで、象徴的な意味というより憲法的な意味です。

トレンガヌに関して伺いたいんですが、州首相の指名ではスルタンが自発的に動いたと判断するべきですか。ブルリスについては、どちらかというともUMNOの党支部がもう勘弁してくれという感じになっていました。シャヒダンという州首相の評判がすごく悪くて、2004年の選挙の時点で追い出されるだろうと思われていました。マレーシアでは州首相が駄目だとなると下院に転出して下院議員になります。ところが2004年にそれをやるとしたら2008年まで州首相を務めました。それで、もう勘弁してくれという意見が相当多かったはずですが、それでもマハティール時代は押し通してきました。どちらかという、スルタンが動いたというよりもアブドゥッラーの権威が下がったということを表しているんじゃないかと思います。

川端 トレンガヌの州首相の指名問題は、もともと現職のイドリス・ジュソーが再任すると思われていたところにスルタンが違う人物を指名しました。そのときアブドゥッラーはunconstitutionalと発言しましたが、スルタンはconstitutionalなことをしただけなんです。さきほど鳥居さんがアブドゥッラー政権の失政と言っていましたが、アブドゥッラーの憲法に対する理解を考えさせられるコメントでした。